報告書の刊行に際して

ここに鉄鋼技術共同研究会における鋼材部会中小形分科会の研究成果を取りまとめて，報告書を刊行することになりました．

中小形圧延工場において生産される製品は，その量についてみれば日本における鋼材の約15%以上を占めており，世界の鋼材生産量に対する割合も中小形製品は同程度の比率を示しており，鋼材需給の面において重要な分野を担当しています．しかしながら日本においては近年まで他圧延部門に比較し中小形圧延工場の設備面の近代化が遅くれていましたが，最近においては棒鋼圧延工場の連続化，中小形鋼工場の圧延機配列のタンデム化などの設備革新が逐次具体化されていることは，誠に喜びにたえないところであります．

このような状況において，本報告書は昭和31年より昭和35年に至る9回の分科会で研究報告した事項をとりまとめたものであつて，参加工場も多く，すなわち18事業所，39工場のデータについて，操業状況，加熱，圧延，精整矯正，製品処理の各項について述べております．従来は既設の設備における技術を中心として研究を重ねて来た関係で，連続圧延機の最新設備についての記述は少ないのですが，基本的には共通する問題であり，この報告書を参考にされて今後の改造資料に利用できるとともに，一般の研究家にとつても，他圧延工場と中小形圧延工場の比較によつて中小形の特色を把握していただければまたハンドブックとしても御参考になると確信したします．

今回の中小形分科会報告書は未だ不充分の点もありますが，今後これを契機として中小形工場相互の技術交流を促進し，日本における中小形圧延技術を世界の鉄鋼界に比して遜色のないものにいたしたいと念願しております．

終りに本分科会の前主査森山達郎氏，ならびに山田千春氏および各社委員の方々により毎年2回，各地の工場見学を兼ねて開催を継続して来ましたことは各位の御協力の賜と感謝にたえません．また本報告書出版編集については部会長の慫慂もあり，各社編集委員，幹事の各位に約1年余の間勤務のかたわら筆をとつて頂いたもので，その御尽力に対し厚く御礼を申し上げます．

昭和36年6月23日

鉄鋼技術共同研究会鋼材部会
中小形分科会主査　桂　寛一郎